

小・中学校特別支援学級「領域・教科を合わせた指導」実践ソフト よーい・どん!!

はじめに

知的障がいの理解

領域・教科を合わせた指導の理解

特別支援学級のエ育課程の理解

理
解

エ育課程の編成

エ育課程
の編成

単元例

単元計画の作成

個別の指導計画の作成(領域・教科を合わせた指導)

単元づくり、
授業づくり

右の各項目をクリックすると、内容が表示されます。

領域・教科を合わせた指導 よーい・どん!!

本ソフトは、特別支援学級を担当する先生方が、知的障がいや領域・教科を合わせた指導についてを理解した上で、領域・教科を合わせた指導を位置付けた特別支援学級のエ育課程の編成や、領域・教科を合わせた指導(単元計画・実際の授業・評価等を含む)を行うためのものです。

「理解」, 「エ育課程の編成」, 「単元づくり, 授業づくり」の3つの内容から構成されています。

特別支援学級を担当する先生方にとって、欠かすことのできない「理解」の内容については、必ずご覧ください。

「よーい・どん!!」を、どのような目的で使いますか？

はじめに 1/1ページ

当てはまる項目のボタンをクリックすると、内容が表示されます。

知的障がいのある児童生徒への教育的対応の基本について、知りたい。

知的障がいの理解

生活単元学習や作業学習等の指導内容について、知りたい。

領域・教科を合わせた指導の理解

どのような時間割にすればよいのか、知りたい。

特別支援学級の教育課程の理解

教育課程の編成

生活単元学習や作業学習等の単元を計画したい。

単元例

単元計画の作成

生活単元学習や作業学習の授業を、一人一人に応じたい。

個別の指導計画の作成(領域・教科を合わせた指導)

「知的障がい」を理解しましょう

知的障がいの理解

1/4ページ

「知的障がい」とは？

一般に認知や言語などにかかわる知的能力や、他人との意志の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについての適応能力が同年齢の生徒に求められるほどまでには至っておらず、特別な支援や配慮が必要な状態とされている。

特別支援学校学習指導要領解説 総則編(平成21年)

知的障がいは、精神医学での症候名としての「精神遅滞」に対して、日本では**障がい**区分として用いられている用語です。したがって、「精神障がい」や「身体障がい」と同じように区分されています。

「知的機能」とは？

知的機能とは、記憶、推理、判断などの認知や言語等にかかわる機能のことです。

「知能」とは？

理解・思考・記憶・学習・推測・計画などの働きに特に関係します。



努力しても難しい場合があり、支援がないと困り、失敗し、やる気や自信がなくなったりします。

「知的障がい」のある児童生徒の困難さ

知的障がいの理解
2/4ページ

★あくまでも一例です。子どもによって差はあります。

知的(知的機能)に発達が遅れがある。

言語の理解と表現，読みと書き，お金の概念，自己統制が難しいなどが見られる。机上の学習では理解しにくい。

社会適応(適応技能)等への困難性を伴う。

一斉指導の中では解釈できにくいために，取組方法がわからなかったり，取り組んでも手順がはっきりせず，遅れがあり，叱責されることもある。

同年齢の子どもたちと比較して平均的水準より明らかに 認知や言語などにかかわる機能に遅れがある。

対人関係（話題がずれる），責任性（忘れやすい），自尊心（高かったり低かったり），ナイーブさ（素直すぎる），だまされやすさ，ルールに従うことの困難さなどがある。

成功経験が少ないことなどにより，主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことがあったり，これらのために，実際的な生活経験が不足しがちになったりすることがあります。反面，よさや得意な面をたくさんもっています。実際の経験から学べる子どもたちでもあります。

◎教育目標は「子どもの自立的・主体的生活の実現」＝「子どもの主体的活動」です。

- ・ 抽象的な指導内容よりは，**実際の・具体的な内容が習得されやすい**傾向があります。
- ・ 教育課程に領域・教科を合わせた指導を**常状に位置付ける**ことにより，見通しをもち，繰り返しもできる環境ができますし，生活にリズムがでできます。
- ・ 実際の，必然性と必要性があり，自然な生活活動として学習活動ができるように。
- ・ 本気で打ち込むに足る本物の生活を目指します。

学習指導要領が示す、 知的障がい教育の基本原則

知的障がいの理解
3/4ページ

- ① 児童生徒の実態等に即した指導内容を選択・組織する。
- ② 児童生徒が、自ら見通しをもって行動できるよう、日課や学習環境などを分かりやすくし、規則的でまとまりのある学校生活が送れるようにする。
- ③ 望ましい社会参加を目指し、日常生活や社会生活に必要な技能や習慣が身に付くよう指導する。
- ④ 職業教育を重視し、将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能及び態度が育つよう指導する。
- ⑤ 生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実地的な状況下で指導する。
- ⑥ 生活の課題に沿った多様な生活経験を通して、日々の生活の質が高まるよう指導する。
- ⑦ 児童生徒の興味・関心や得意な面を考慮し、教材・教具等を工夫するとともに、目的が達成しやすいように、段階的な指導を行うなどして、児童生徒の学習活動への意欲が育つよう指導する。
- ⑧ できる限り児童生徒の成功経験を豊富にするとともに、自発的・自主的な活動を大切に、主体的活動を促すよう指導する。
- ⑨ 児童生徒一人一人が集団において役割が得られるよう工夫し、その活動を遂行できるよう指導する。
- ⑩ 児童生徒一人一人の発達の不均衡な面や情緒の不安定さなどの課題に応じて指導を徹底する。

「知的障がい」のある児童生徒

知的障がいの理解
4/4ページ

「知的障がい」のある児童生徒への
教育的対応の基本

領域・教科を合わせた指導が有効

特別な教育課程

特別支援学級の教育課程の理解
1/2ページ

特別支援学級は、小学校もしくは中学校に準じた教育課程をもとに、特別支援学校小学部・中学部**学習指導要領**を参考にすることができます。

『学校教育法施行規則第百三十八条』

○小学校もしくは中学校に準じた教育課程



○子どもの障がいや発達段階に応じた教育課程

- ・ 各教科の目標や内容の一部を取り扱わないことができる。
- ・ 各教科を特別支援学校の各教科に替えることができる。
- ・ 各教科の目標・内容の全部又は一部を、下の学年の目標や内容に替えることができる。
- ・ **知的障がいあるいは重複障がいの子どもを教育する場合には、必要に応じ、各教科、道徳、特別活動及び自立活動を合わせて指導することができる。**

- ・ 学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした「自立活動」を取り入れることができる。

領域・教科を合わせた指導

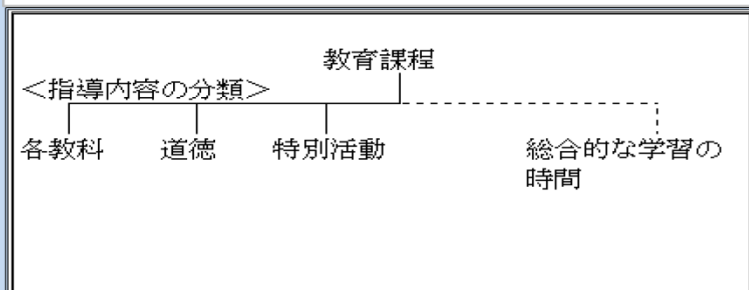
教育課程の構造図

特別支援学級の実践
2/2ページ

【下図の解説】

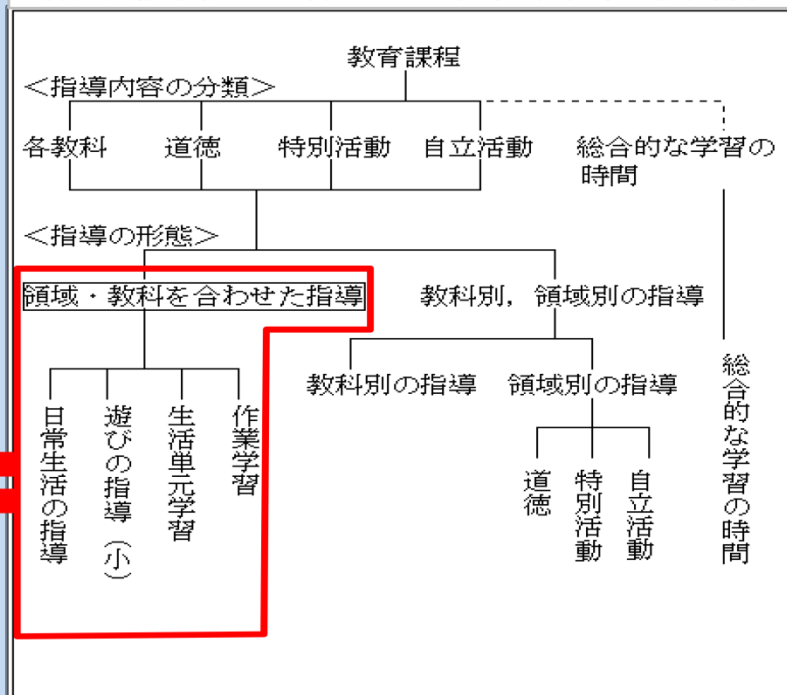
上段の指導内容を選択・組織した上で、改めて構造図の下段にある指導の計画を立てることになります。つまり、時間割上、それぞれの指導の形態を位置付けることになります。

通常の学級の教育課程



子どもの思いや願いを尊重し、**生活に結びついた实际的・具体的な学習活動を中心に据え**、子どもが踏み出そうとしている方向を見定めての教育的な支援と生活経験を確かに積み上げていく指導

特別支援学校(知的障がい)小学部・中学部の教育課程



「領域・教科を合わせた指導」は、知的障がいの子どもに適した指導の形態

日常生活の指導

領域・教科を合わせた指導の理解

2/6ページ

「日常生活の指導」とは？

児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するものである。

「日常生活の指導」では？

衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔など基本的生活習慣の内容や、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守ることなどの日常生活や社会生活において必要で基本的な内容を指導する。

「日常生活の指導」の指導計画を作成するに当たって考慮する点

- (ア) 日常生活の自然な流れに沿い、その活動を実際的で必然性のある状況下で行うものであること。
- (イ) 毎日反復して行い、望ましい生活習慣の形成を図るものであり、繰り返しながら、発展的に取り扱うようにすること。
- (ウ) できつつあることや意欲的な面を考慮し、適切な援助を行うとともに、目標を達成していくために、段階的な指導ができるものであること。
- (エ) 指導場面や集団の大きさなど、活動の特徴を踏まえ、個々の実態に即した効果的な指導ができるよう計画されていること。

遊びの指導

領域・教科を合わせた指導の理解

3/6ページ

「遊びの指導」とは？

遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動をはぐくみ、心身の発達を促していくものである。

「遊びの指導」では？

生活科の内容をはじめ、各教科に関わる広範囲の内容が扱われ、場や遊具等が限定されることなく、児童が比較的自由に取り組むものから、期間や時間設定、題材や集団構成などに一定に条件を設定し活動するといった比較的制約性が高い遊びまで連続的に設定される。また、遊びの指導の成果が各教科別の指導等につながることもある。

「遊びの指導」の指導計画を作成するに当たって考慮する点

- (ア) 児童が、積極的に遊ぼうとする環境を設定すること。
- (イ) 教師と児童、児童同士のかかわりを促すことができるよう、場の設定、教師の対応、遊具等を工夫すること。
- (ウ) 身体活動が活発に展開できる遊びを多く取り入れるようにすること。
- (エ) 遊びをできる限り制限することなく、児童の健康面や衛生面に配慮しつつ、安全に選べる場や遊具を設定すること。
- (オ) 自ら遊びに取り組むことが難しい児童には、遊びを促したり、遊びに誘ったりして、いろいろな遊びが経験できるよう配慮して、遊びの楽しさを味わえるようにしていくこと。

生活単元学習

領域・教科を合わせた指導の理解
4/6ページ

「生活単元学習」とは？

児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。

「生活単元学習」では？

広範囲に各教科等の内容が扱われる。

「生活単元学習」の指導計画を作成するに当たって考慮する点

- (ア) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。
- (イ) 単元は、必要な知識・技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かされるものであること。
- (ウ) 単元は、児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動をも含んだものであること。
- (エ) 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団生活で単元の活動に共同して取り組めるものであること。
- (オ) 単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。
- (カ) 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるよう計画されていること。

作業学習

領域・教科を合わせた指導の理解
5/6ページ

「作業学習」とは？

作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。

「作業学習」では？

農耕，園芸，紙工，木工，縫製，織物，金工，窯業，セメント加工，印刷，調理，食品加工，クリーニングなどのほか，販売，清掃，接客なども含み多種多様である。

「作業学習」の指導計画を作成するに当たって考慮する点

- (ア) 生徒にとって教育的価値の高い作業活動等を含み、それらの活動に取り組む喜びや完成の成就感が味わえること。
- (イ) 地域性に立脚した特色をもつとともに、原料・材料が入手しやすく、持続性のある作業種を選定すること。
- (ウ) 生徒の実態に応じた段階的な指導ができるものであること。
- (エ) 知的障害の状態等が多様な生徒が、共同で取り組める作業活動を含んでいること。
- (オ) 作業内容や作業場所が安全で衛生的、健康的であり、作業量や作業の形態、実習期間などに適切な配慮がなされていること。
- (カ) 作業製品等の利用価値が高く、生産から消費への流れが理解されやすいものであること。

生活単元学習「クリスマス会を開こう」

領域・教科を合わせた指導の理解
6/6ページ

題材「オリエンテーション」

- ・ 目的を日頃、お世話になっている親や先生を招待しようとした。
- ・ 生徒は「盛り上げるためには、必要なものがある」と話すなど、自分たちで考えていき、担当リーダーを自分たちで割り当てた。



【教科別の指導における
生活単元学習との関連】

国語「招待状」

- ・ 字体を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書く。
- ・ 招待する立場での丁寧な言語を覚える。
- ・ 案内する人への宛名を正確に書く。

題材「クリスマスツリー、キャンダル、クリスマスリース作り」

- ・ 題材の各リーダーは、仲間に教えるために試作品の作成や工夫を凝らしながら作品づくりに集中し、完成すると「わー」と盛り上がった。



題材「クリスマスケーキ作り」

- ・ 既習した調理で自信があったので、スポンジケーキづくりから始めようと計画。当日は、絞り器でデコレーションをし、飾り付けにミスはないか、何度も確認していた。リースも無事完成し、飾ることができた。



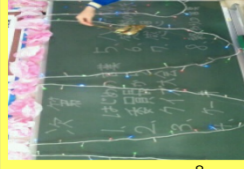
題材「クリスマス会」

- ・ 招待状作成が遅れてしまったと言っていたが、生徒は、来てくれると信じて一生懸命に飾り付けをし、準備万端。一人一人の仕事が完成できているか一つずつ確認をし、あとは、スタートを待つだけになり、わくわく感満点だった。



題材「クリスマス会を味わう」

- ・ 次策を作成し運営。保護者3名、招いた教師(校長・副校長・交流学級担任など)5人、妹1人、生徒6人の15人でクリスマス会を開催。生徒企画のクイズ大会やハンドベル演奏、教師のサブライズもあり、盛り上がりで達成感を味わった。既に次何やる?と発展していった。教師は、即、次は正月があるね...と、ヒントを出していた。



音楽「ハンドベル演奏」

- ・ 自分のパートする音階がわかり、音符に沿って、正確に鳴らし、リズムを同調させる。
- ・ 英語で合唱する場合の発音や読みの学習。

家庭科「ケーキづくり」

- ・ 調理実習の仕方を覚える。

学級活動「クリスマス会」

- ・ 単元の目的達成のために、意見を出し合う。
- ・ 次第を考える。
- ・ 適切な役割分担をする。
- ・ 役割を果たす。

この単元では、既製品を使って感謝の気持ちを表すのではなく、手づくりの会でいと生徒同士で確認をした。担当リーダーを中心に、それぞれができれば完成できるのか経験を生かし、試行錯誤していた。途中、仲間からのアドバイスなどにも耳を傾け試作品を作成していた。完成すると、その手順を仲間に教える準備をしていた。一人一人が主役になって活動し、いろいろな所から情報を集め、さらにいいものができるか熱心な姿が見れた。当日は、想像を超える9名の参加があり、みんなで盛り上がる会にしよう、来客者にも前に出てきて話をもらい、一体となった会にすることができ、目的達成ができた。終了後には、家庭でも作ってねと、保護者から依頼があるなど、

特別支援学級における 教育課程の編成手順

教育課程の編成
1/5ページ

- (1) 学級や児童生徒の実態等から、領域・教科を合わせた指導(日常生活の指導, 遊びの指導, 生活単元学習, 作業学習)の中から、学級全員で取り組むものや時数を決める。
- (2) 年間標準授業時数を勘案しながら、領域・教科を合わせた指導以外の教科等の時数を計算し、週当たりの時数を決める。
- (3) 学級全員で取り組む領域・教科を合わせた指導を時間割に設定し、通常の学級の教育課程を編成する主務者(副校長や教務主任等)に報告する。
- (4) 通常の学級の教育課程を編成する主務者に、特別支援学級担当者の他学級での指導や、交流学級の時間割等を調整してもらう。
- (5) 特別支援学級と交流学級の時間割案を突き合わせながら、お互いの学級の教科等の時間を時間割に設定し、時間割を完成させる。

特別支援学級も、

一つの学級集団です。
領域・教科を合わせた指導のよ
さとして、学級の子どもたちが、
ある一つのテーマや目的に向か
って、友達とかかわりあいながら、
活動することがあげられます。

**同一時間に全員で取り組むこと
ができるように、学級としての領
域・教科を合わせた指導の時間
を設定することが大切です。**

特別支援学級の時間割例

教育課程の編成
2/5ページ

例1(帯状) 望ましい時間割の例

	月	火	水	木	金
1校時	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導
2校時					
3校時	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	作業学習
4校時					作業学習
5校時					
6校時					

左の表では、1時間目に日常生活の指導を設定しています。毎日繰り返し日常生活に必要な活動を行ったり、その日の活動の確認をしたりできます。3時間目には、生活単元学習や作業学習を帯状でとっていることから、**規則性があり、子どもにとってわかりやすい日課になっています。**

例2(モザイク型) 改善を要する時間割の例

	月	火	水	木	金
1校時	日常生活の指導		日常生活の指導		
2校時		日常生活の指導			
3校時			生活単元学習	日常生活の指導	
4校時	生活単元学習				
5校時	生活単元学習			作業学習	
6校時		作業学習	生活単元学習		日常生活の指導

領域・教科を合わせた指導の時数は、例1と同様です。しかし、毎日の日課が異なっているために、**見通しをもちにくい日課となっています。**知的障がいや自閉症の児童生徒の場合、このような時間割は見通しをもちにくく、学校生活自体への困難さを感じる人が多いです。

例3(穴埋め型) 改善を要する時間割の例

	月	火	水	木	金
1校時					
2校時				作業学習	
3校時					
4校時					
5校時		生活単元学習			
6校時					

領域・教科を合わせた指導の時間を設定していますが、**知的障がいのある児童生徒にとっての教育的対応の基本を踏まえたものとは言い難い**のではないのでしょうか。系統的な教科学習に取り組むことが、その児童生徒にとって適切な指導内容であれば妥当な時間割となる場合がありますが、知的障がいのある児童生徒が在籍している場合は、将来的な社会参加や自立を目指す指導が可能な時間割にすることが望ましいでしょう。

領域・教科を合わせた指導における 単元づくり, 授業づくりの手順

単元計画の作成
1/3ページ

- (1) 学級や児童生徒の実態等から, 単元のテーマや中心となる題材・活動を決める。
※ 1ヶ月前迄には, 決定していると, 活動するに当たっての必要なものの準備や連絡調整等の時間をとることができる。
- (2) 「単元計画」を作成し, 教師間での打合せを行う。
※ 活動計画, 環境設定, 必要なもの等, 活動するに当たっての詳細について検討することが必要です。
- (3) 単元内の題材から, 具体的な学習活動を想定し, 一人一人の「個別の指導計画(領域・教科を合わせた指導)」を作成する。
※ 学期等の比較的長い期間において, いくつかの単元をまとめて計画することにより, 「個別の指導計画(領域・教科を合わせた指導)」を何度も作り直すことも減ります。
- (4) 「単元計画」や「個別の指導計画(領域・教科を合わせた指導)」を使用しての授業と評価を行う。

単元・授業の成功の秘訣は,
段取りと共通理解です。
領域・教科を合わせた指導のよさとして, 学級の子どもたちが, ある一つのテーマや目的に向かって, 友達とかかわりあいながら, 活動することがあげられます。

**児童生徒が見通しをもつことの
大切さと同様に, 指導する教師も
見通しをもって準備・指導に当たることが大切です。**

単元づくり, 授業づくりで大切なこと

単元計画の作成
2/3ページ

- ◎ 事前の準備や授業当日に, 教師が児童生徒と共に取り組むことで, 具体的な指導が見えてくる。
- ◎ 生活をしたことがないという教師はいない＝生活単元学習をしたことがないという教師はいない。
- ◎ 単元期間は数週間から1ヶ月程度→テーマに見通しをもって。
- ◎ 最も中心的な活動を絞り込み, 大きく位置づけ, 一人一人に活動を分担。そして, 積み重ねる。
- ◎ どこまでも主体は子ども。
- ◎ できる手立てを考える。
- ◎ 生活力をつけることが中心となる。